

くらしとまちづくりの交流集会



「あなたの老後大丈夫ですか?」「子どもや孫は?」「皆さんは集まっておしゃべりできる場所がありますか?」そう問いかけられるお話をNHK名古屋放送局報道部チーフ・プロデューサーの板垣淑子さんに聞きました。

「真面目に生きて交流関係があっても、リウマチになって外に出る機会が減ってきた。体が動かせないのでほかの人に迷惑をかけるから、

人に合う機会を自ら減らした」など、だれでもおこることがある、子どもから高齢者までの貧困の状況が分かりました。

参加者からは「現実の厳しさを再認識した」「人に迷惑をかけるから…ではなく、お互いが迷惑を掛け合ってもいい関係づくりをしたい」「高齢者だけではなく、子どもの貧困にも目を向けていきたい」など感想が寄せられました。

午後からは、「私たちが暮らす街でのとりくみ。今後、何ができるか。何を目指すか。」をテーマに日頃北医療生協でとりくんでいることを交流しました。

介護の分野では在宅介護サービスマスターの大曾さんから、あじまの家デイサービスでミニデイの利用者さんがデイサービスのボランティアをしてもらえるようになった事例の報告などをしてもらいました。子ども食堂のとりくみはワイワイ子ども食堂の杉崎さんから「子ど

もたちの居場所としての子ども食堂を運営していきたい」ということ、「小学校区にひとつでも誰もが歓迎される居場所があるとよい」と報告をもらいました。

寺子屋学習塾(名古屋)市より委託を受けている保護世代の生徒の学習支援(ではあじま教室サポーターの山本さんから、継続して教えている中で助けを求められているところが学習だけではないということ)を報告してもらいました。

